

覚えていますか

谷村 清子

覚えていますか

誰って？ 私のこと

ずっと昔のことだから、

あなたの頭の中もこころの中も、

空っぽだって、わたしは知ってるんだから

いつの日だったか、

電話が掛かって来たので、

こ躍（おど）りして、

旧県道に面した実家の前に待っていたこと

何もあなたは、知らなかったでしょう

あなたを、恨んだりしません

洪木真木の木こりの息子だってこと、

その時は知らなかったもの

そして・・・

お爺ちゃんが、製材業をしている時、

真木のあなたの家と、

取引があったことを

私知って、何故悪いの

若いってことは、無防備で年を取るごとに

着物を一枚ずつ脱ぎ捨てて

いくようなものだもの

そのころ、あなたが住んでいた京都から手紙が来ていることを、両親が知らない筈はないもの

あなたが、わたしの卒業した高校の一歳下の女の子と結婚したことは、

風の便りに訊きました

社内結婚だったということ

いくら手紙を出しても、

返事が来なくなったことに、  
こころはざわつきましたが、  
わたしは、あなたのところに飛んで行く勇気は、持ちえませんでした  
両親から、兄弟二人の一人娘に生まれたわたしは、  
生まれた時から、そういう育て方をされたのです

何のアクションを私に与えず、  
風のようにわたしの前に現れ、  
風のように去って行ったあなたは、  
風の向こう側の風景のような  
存在だったもの

脱稿 令和六年九月十九日